サファリゴールドはハコスカを粋に演出

撮影車両にはトピー製の純正スチールホイール、ブリヂストンのスーパースピードタイヤ、純正のセンターキャップまで装着。サスペンションも純正品で、車高が高い

ホワイドボディからレストアされたボディはエンジンルームからトランクまで美しい。燃料タンクも純正。エンジンは排気系を変更。ステンレスマフラーからのエキゾーストノートに痺れる

内装はダッシュボードに割れもなく極上。オリジナルのステアリングなのも価値が高い。シートは部分的に張り替え、アンコが追加されるなど完全甦生される

第1世代に学ぶ GT-R道 ハコスカCLUB

「所有するなら特別なRを手にしたい！」
希少性を求めるファンは少なくない。
第2世代R以降はこうしたレアな限定車が
時代とともに複数台用意されてきたが、
第1世代Rには存在したのだろうか？

文：山崎真一（本誌）　写真：澤田優樹

Rファンの間では「サファリブラウン」と呼ばれているが、正式には「サファリゴールド」。ハコスカの価格は2,580万円

ロッキーオート 発

稀少色を纏う特別なRの饗宴

空調管理されて眠っていた1万5000kmのケンメリ

第2世代、第3世代GT-Rの歴史を振り返ると節目節目で特別な限定車が用意されている。レース参戦ベース車両であるR32ニスモやスカイラインの生誕40周年記念車R33オーテックバージョンといった特殊なモデルを除けば、ほとんどが特別色を纏ったモデルだ。

これまで登場したカラー限定車はR33の「チャンピオンブルー」、R34の「ミッドナイトパープルⅡ、Ⅲ」、「シリカブレス」、R35の「ミッドナイトオパール」、「シリカブレス」の計6台。ちなみにR34とR35に同じ「シリカブレス」が設定されたのは現R35CPSである田村宏志氏が企画を担当していたからだ。いずれの車両も生産台数が少ないことから市場では高値で流通している。

では、第1世代GT-Rはどうか？ハコスカ、ケンメリはそれ以降のGT-Rと異なり、素のモデルはヒーターもオプションの純粋なモータースポーツ参戦ベース車両。第2世代Rでいうニスモのような存在であり、残念ながら限定車は存在しない。

ただ、カタログには載っていない特別なカラーは存在する。それが、今回紹介するレッドのケンメリGT-Rとサファリブラウンのハコスカの2ドアHTのGT-Rだ。

ケンメリGT-Rの生産台数は197台（諸説あり）であることは読者諸氏ならご存じかと思うが、その生産台数の中で赤はわずかに7台。そのうちの1台は日産座間記念庫に保管されているので、市場にあるのは6台というレア中のレアである。

一方のハコスカRのサファリブラウンは初代のフェアレディZや510型ブルーバードなどには設定されたが、ハコスカRのカタログには載っていない。生産台数は定かではないが、2ドアHTGT-Rが日産から発表されたときに展示車として用意されていたこと、昭和45（1970）年式しか存在しないことから、展示車両と同時に生産された個体が市場に流れたとか、プロトタイプを販売、と言われているが、稀少であることは間違いない。

このレアなハコスカRとケンメリRの2台を所有するのが、愛知県岡崎市に店舗を構え、ヒストリックカーのさまざまな楽しみ方を提案する『ロッキーオート』だ。

「当社はハコスカR、ケンメリRを20台弱所有していますが、その中でもこの2台は素性こそ異なりますが、ともに程度極上で、稀少中の稀少車といえます」と渡辺喜也代表。

まず、ケンメリは塗装を見直しただけのフルオリジナルで、走行距離は何と1万5000km。温度、湿度ともに管理されたガレージに保管されていたので、エンジンルームも内装も極上。まるでタイムスリップしてきたような奇跡の個体だ。

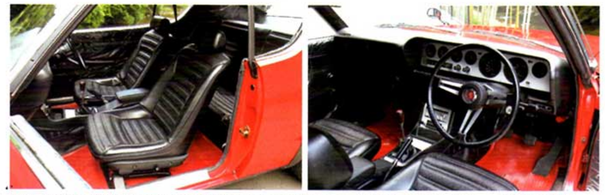
対するハコスカは骨格から作り直したフルレストア車。新品部品がふんだんに使用され、錆対策なども現代風の仕上げが施されているので安心して乗れるクルマに仕上がっている。その存在はまさに新車。生産終了から45年以上が経過した車両とは思えないほど現役感が漂っている。

「海外からも引き合いがありますが、GT-Rは日本の宝。価値をわかっていただける方にお譲りしたいですね」と渡辺代表。旧車界を牽引する一人の言葉はいちファンとしてうれしい限り。本物の極上Rを本気でほしいファンはぜひ問い合わせを！

新車のような2台は後世まで残すべき宝

走行1万5,000km! 純正レッドは7台のみ

外装は塗装のみ見直しているが、オリジナルのままのエンジンルーム、トランクルームなどを見ても艶感が半端ない。メッキ類、プラスチック類などにも傷みがなく、メーターパネルには保護のビニールが今も貼られたままだ。センターコンソールのシルバーの塗装も美しく、パナソニック製のオーディオも当時モノである



走行距離1万5,000kmの程度の良さを感じさせるのは車体のシャッキリ感。遠目から見てもとやれた感じがない。インテリアも完全オリジナル。ステアリングやバケットシートなどはハコスカとデザインは異なる。価格は応談

ロッキーオート
愛知県岡崎市小美町字殿街道153
☎0564・66・5488（完全予約制）
https://rockyauto.co.jp/
営業 10:00～19:00
定休 月曜

渡辺喜也代表

「ハコスカやケンメリにRBを搭載し、気軽に乗れる旧車を提案していますが、本物のGT-Rは宝ですから手を加えることなく、オリジナルに近い極上車を用意しています」

レアカラーはRに特別感をプラスする

ハコスカ／ハコスカGT-Rでのイメージカラーといえばシルバーだが、今回撮影したはGT-Rのスパルタンなイメージは払拭され、とてもお洒落でスタイリッシュに感じられとともに一生愛車と添い遂げるなら全塗装をして個性を主張するのもありだと感じ

GT-R Magazine 136

2017/Sep

平成29年8月1日発行・発売（偶数月1日発行・発売）通巻121号 第21巻 第5号

Auto Messe Web
http://www.automesseweb.jp

最新デモカー試乗で味わうGT-Rのリアルワールド

円熟極める第2世代R

R35 Track edition×1,200kmツーリング

羊の皮を被ったR35の素顔

コンプリートカー「OSR32」製作プロジェクト

エンジン開発の新たな展開